

# 人権に関する県民意識調査 報告書

<平成19年7月調査>

岐 阜 県

## 1-1 調査の目的

本調査は、「岐阜県人権施策推進指針（第一次改定）」の策定にあたり、県民の人権に関する意識や、県民が求めている人権施策の方向性を把握し、指針策定の基礎資料とすることを目的とする。

## 1-2 調査の設計

(1) 調査地域	岐阜県全域（岐阜地域、西濃地域、中濃地域、東濃地域、飛騨地域）
(2) 調査対象	県内在住の20歳以上の方
(3) 標本数	2,000人
(4) 調査方法	郵送法
(5) 抽出方法	選挙人名簿による層化二段抽出
(6) 調査時期	平成19年7月

## 1-3 調査の内容

- (1) 人権全般について
- (2) 女性の人権について
- (3) 子どもの人権について
- (4) 高齢者の人権について
- (5) 障害者の人権について
- (6) 同和問題について
- (7) アイヌの人々の人権について
- (8) 外国人の人権について
- (9) 感染症患者等の人権について
- (10) 刑を終えて出所した人の人権について
- (11) 犯罪被害者とその家族の人権について
- (12) インターネットによる人権侵害について
- (13) 性的指向の異なる人の人権について
- (14) 性同一性障害者の人権について
- (15) ホームレスの人権について
- (16) 人権教育・人権啓発の方法について
- (17) 各人権問題に対する関心度

## 1-4 回収結果

	配布数 (件)	回収数 (件)	回収率 (%)	有効回答数 (件)
全 体	2,000	1,169	58.5%	1,168
岐阜地域	762	433	56.8%	/
西濃地域	372	224	60.2%	
中濃地域	370	213	57.6%	
東濃地域	340	192	56.5%	
飛騨地域	156	99	63.5%	

※「地域別」の設問で無回答があったため、回収数 (件) の全体と地域別の合計は一致しない。

## 1-5 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅をもたせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P : \text{回答率} \quad N : \text{母集団数} \\ n : \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は、①回答者数 (n)、および②回答率 (P) によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答率における標本誤差を以下の表に示す。

n (回答者数 人)	P (回答率 %)									
	5又 は95	10又 は90	15又 は85	20又 は80	25又 は75	30又 は70	35又 は65	40又 は60	45又 は55	50
n=1,000	2.8	3.8	4.5	5.1	5.5	5.8	6.0	6.2	6.3	6.3
n=1,168	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.7	5.8	5.9
n=2,000	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5

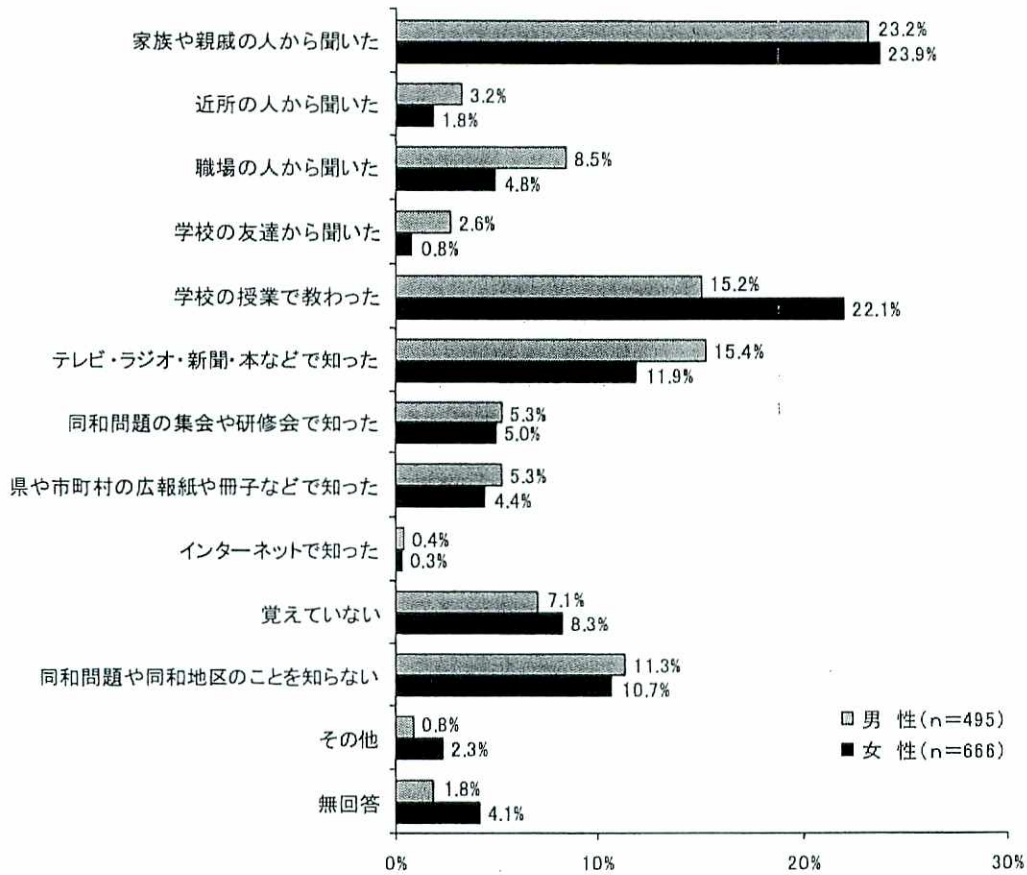
(注) 1. 上表は  $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$  として算出した。

2. 層化を行った場合、誤差は上表より若干小さくなる。

3. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が1,168人であり、その設問中の選択肢の回答率が50%であった場合、その回答率の誤差の範囲は最高でも5.9%である。」

男女別

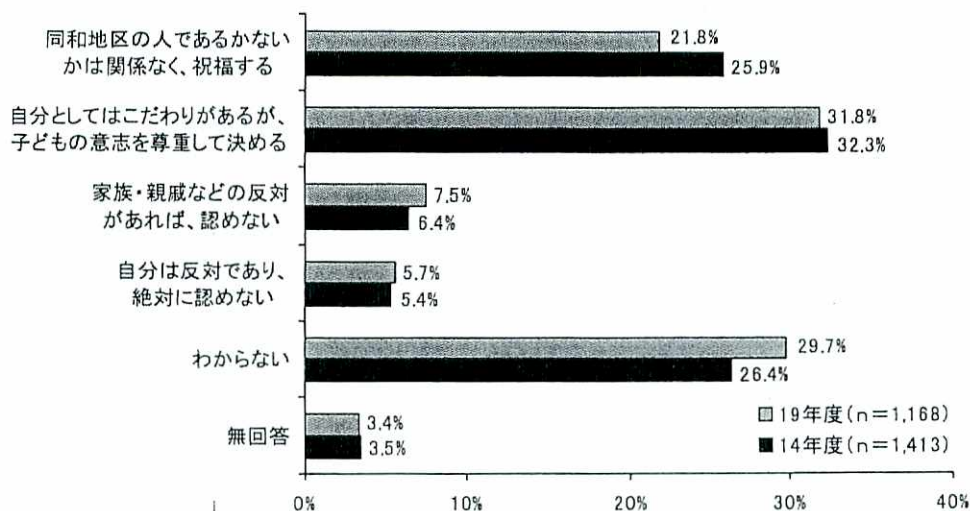


【コメント】

- 男女とも上位3項目は「家族や親戚の人から聞いた」「学校の授業で教わった」「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」となっている。
- このうち、「学校の授業で教わった」については、男性よりも女性のほうが高くなっており、一方で「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」「職場の人から聞いた」は、男性でやや高くなっている。

### (3) 自分の子どもが同和地区出身の人と結婚すると知ったときの対応

問28 あなたのお子さんが（いらっしゃらない場合は、いると仮定してお考えください）、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか。あなたの気持ちにいちばん近いものを次の中から1つだけ選んで○をつけてください。



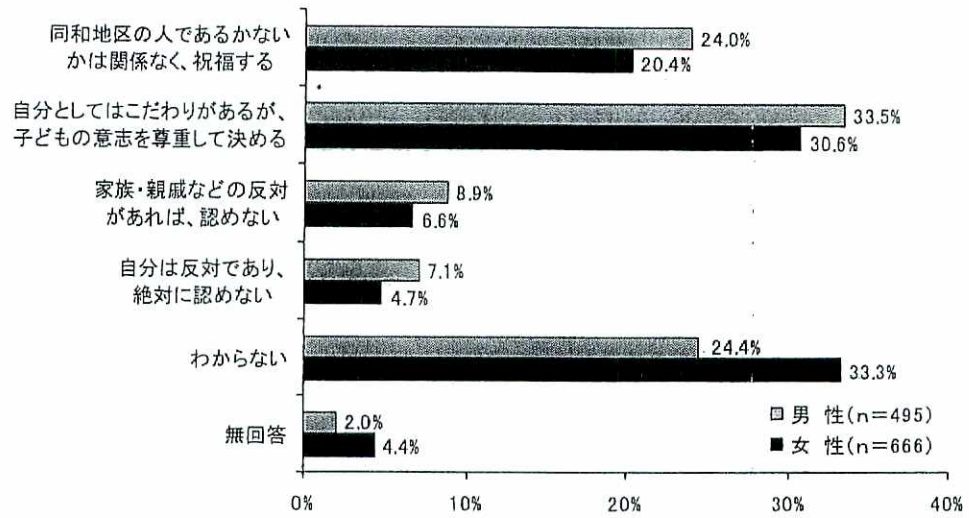
#### 【コメント】

- 「自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して決める」が31.8%と最も高く、「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」が21.8%となっている。
- 「家族・親戚などの反対があれば、認めない」が7.5%、「自分は反対であり、絶対に認めない」が5.7%となっている。
- なお、「わからない」と回答した人は29.7%となっている。

#### 〔前回比較〕

- 「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」は、前回に比べ4.1ポイント減少している。

男女別

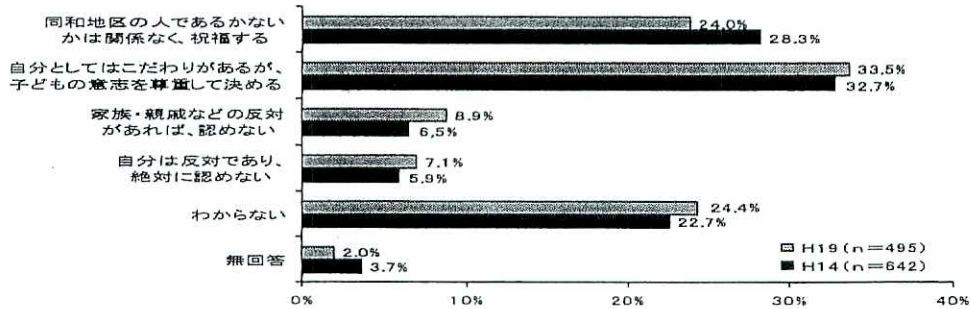


【コメント】

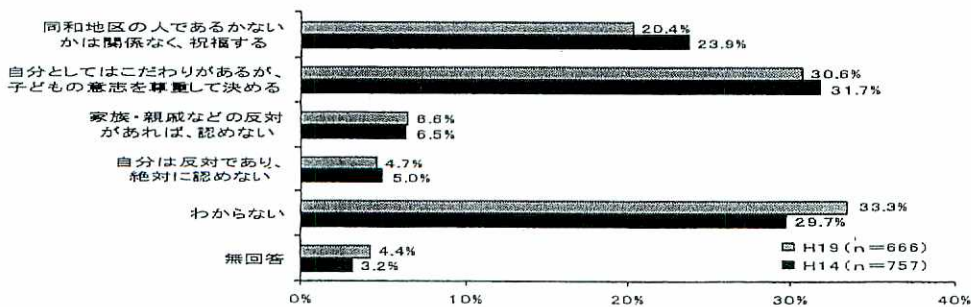
■ 「わからない」と回答した人の割合は、女性で3割を超えており、男性よりも高くなっている。

男女別 (前回比較)

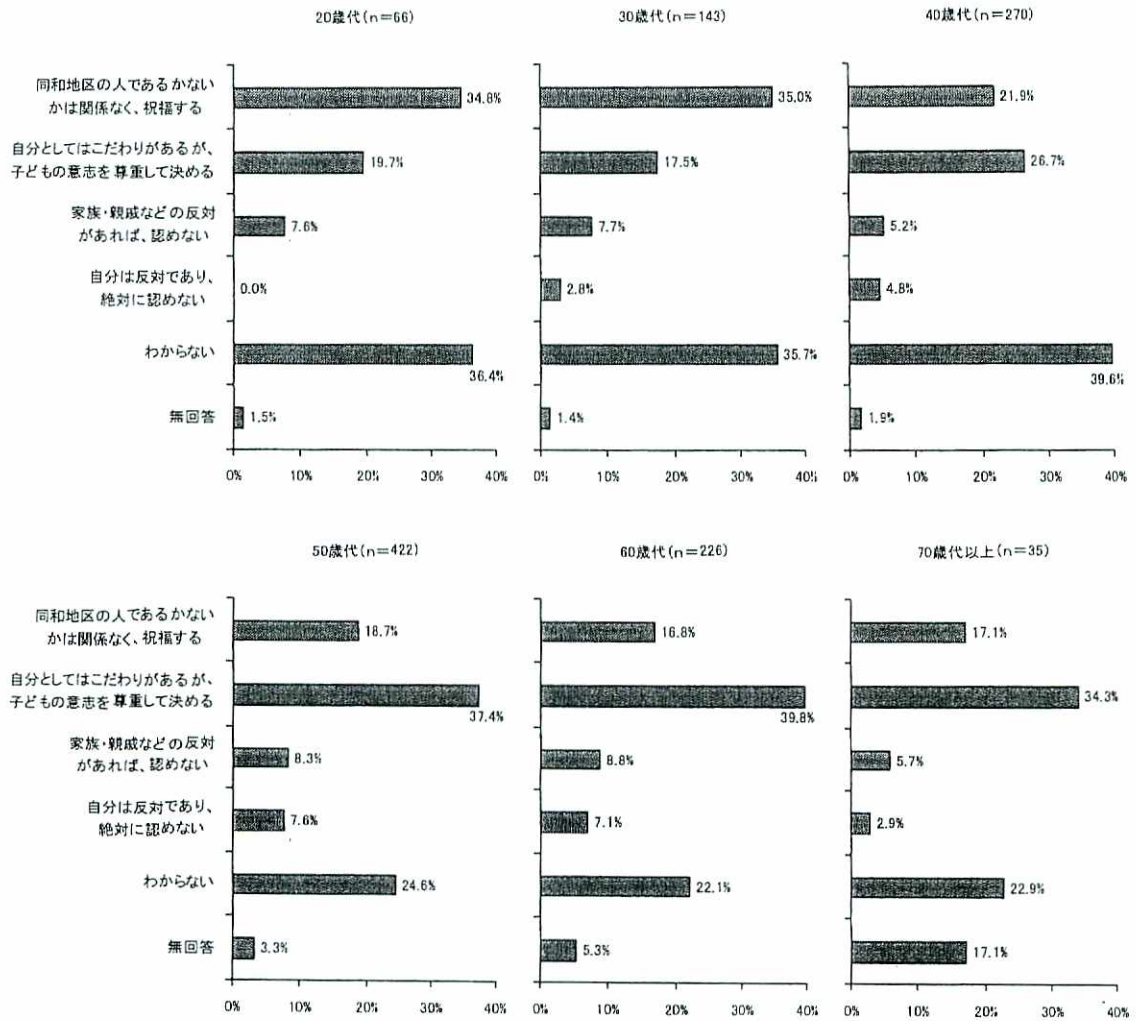
男性



女性



年代別

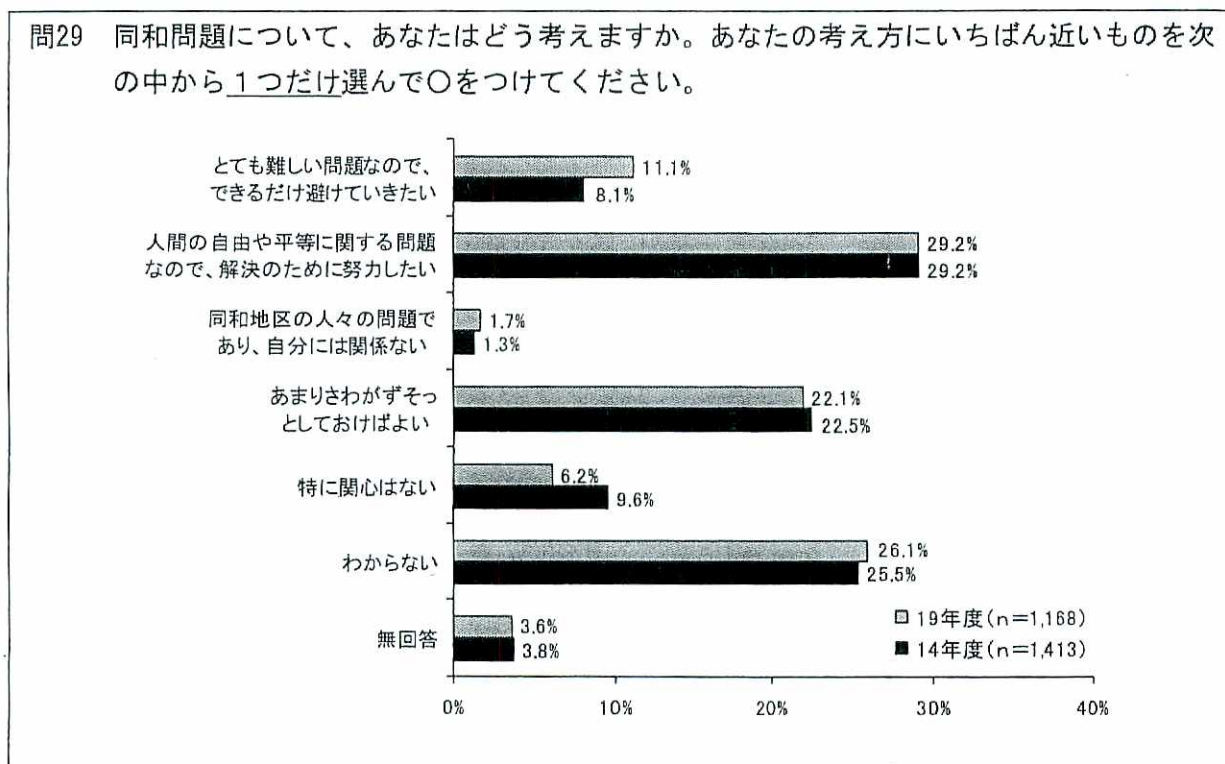


【コメント】

■ 「わからない」と回答した人の割合が20～40歳代で特に高く、4割弱となっている。

#### (4) 同和問題についての考え

問29 同和問題について、あなたはどのように考えますか。あなたの考え方にいちばん近いものを次の中から1つだけ選んで○をつけてください。



#### 【コメント】

- 「人間の自由や平等に関する問題なので、解決のために努力したい」が29.2%となっている。
- 一方で、「あまりさわがずそっとしておけばよい」は22.1%、「とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい」は11.1%となっている。
- なお、「わからない」と回答した人は26.1%となっている。

#### 〔前回比較〕

- 「とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい」は、前回に比べ3.0ポイント増加している。
- 「特に関心がない」は、前回に比べ3.4ポイント減少している。